

●DV防止基本計画
21年度中に策定

問 男女共同参画社会の形成に向けた本市の取り組みは。

答 審議会における女性委員の割合が政令市の中で最も高いことや、DV被害者の一時保護の実施、全国に先駆けての

「配偶者暴力相談支援センター」の設置などは高い評価を受けている。

男女共同参画社会を形成するための重要課題であるDV防止対策をさらに推進するため、平成21年度は「DV防止基本計画」の策定を予定している。

●生ごみ処理容器助成制度
環境負荷への配慮を

問 電気式生ごみ処理機は温室ガス排出量が多いため環境負荷が大きいとの声を聞くが、購入費助成制度導入の過程で環境負荷、他都市の取り組みなどの調査をしたのか。

答 家庭ごみの有料化を実施している自治体のほとんどがこの制度を導入している。市民説明会等での要望も強く、生ごみの減量効果があること、ごみ減量意識の啓発になることなどから導入した。平成21年秋に環境負荷への配慮を念頭に置いた市民アンケートを実施し、活用実態や課題を把握するとともに、他都市の状況を調査したい。

環境・衛生

●BDF事業の準備状況

問 バイオディーゼル燃料(BDF)化事業の準備は万全か。

答 パートナー企業が高品質なBDF製造施設を建設中で、プラントは5月中旬完成、供給開始は6月初旬となる見込みだ。本市もごみ収集車への給油施設の整備を進めている。

原料となる「使用済み天ぷら油」の回収は、パートナー企業と一体となって、プラント稼働後の速やかなスタートに向け準備中だ。プラント稼働までに回収した天ぷら油等は貯蔵タンクに保管し、事業に支障のないように準備する。

などで、市民ニーズを把握する中で検討したい。

●資源化物収集の現状は

問 家庭ごみ収集有料化後の資源化物収集の現状は。

答 ごみステーションに排出される資源化物の量は、月2回収集の定着した平成21年1月には約30%の増加となった。

東部リサイクルプラザに搬入された2月第2週までの資源化物の量は約70%の増加だ。



圧縮され再資源化を待つペットボトル

家庭ごみが減り、資源化物が増えていることから、家庭での分別が進んでいるものと考えます。

●ごみ袋への要望
アンケート調査実施へ

問 有料指定ごみ袋に関する苦情や、小さい袋の販売要望にどのように対応するのか。

答 有料指定ごみ袋は「くくる部分がちぎれやすい」「袋の黄色に濃淡がある」との声があり、5月末に納入される袋からは濃い黄色で、くくる部分は幅を広くし強度を持たせるよう改善する。

小さい袋の販売や、減免制度の基準見直しは市民アンケート

●合併処理浄化槽補助金

問 合併処理浄化槽補助金は国、県、市が3分の1ずつ負担してきたが、政令市になり、県の補助金がなくなった場合、市が県の方まで負担するのか。

答 政令市移行後の小型合併処理浄化槽補助事業については、市民の新たな負担増とならないよう、市が事業費の3分の2を負担する方針だ。

●保護した成犬の譲渡
21年度に課題を整理

問 保護した犬の譲渡について市民ニーズを把握し、成犬の殺処分を避けるべきでは。

答 成犬になるとなつきにくく、人に危害を与える恐れや動物由来感染症等の問題があることから、市民の安全性を第一に考えて現在、譲渡は子犬に限っている。

平成21年度から収容する成犬の個別の適正や疾病等を判定票で調査し、飼育経費や場所等の譲渡に関する課題を整理したい。